

事務事業チェックシート

事務事業No

事業名

[事業基本情報]

12306

放課後児童健全育成事業（若竹学級）

[長期総合計画]

分野別目標	3	子供たちがいきいきと育つまち
政策	1	安心して子供を生み育てることのできる環境の整備
施策	1	安心して子供を生み育てることのできる環境の整備
取組方針	2	子供が健やかに育つことのできる環境づくり

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・ 予算区分	会計	一般会計		
	款	教育費		
	項	社会教育費		
	目	放課後児童健全育成費		
	大事業	放課後児童健全育成事業		
	中事業	放課後児童健全育成事業（若竹学級）		

事業種別	継続		関連個別計画	
事業年度	無し	～	無し	担当課・担当課長・Tel 青少年課 鷺山 宏和 435-1235
事業実施の根拠法令	和歌山市放課後児童健全育成事業の実施に関する条		関連課	

1 事業内容

	（「誰・何」をどういう状態にするための事業か）		全体事業概要		
事業目的	保護者が労働等により昼間家庭にいない、小学校に就学している児童に対し、教室等を利用して、適切な遊び及び生活の場を与えて、その健全な育成を図る。		放課後児童の健全育成を行う。		
事業内容	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	小学校の教室等を利用し、支援員等を配置し、保護者が労働等により昼間家庭にいない、小学校に就学している児童に対し、遊び及び生活の場を提供している。	小学校の教室等を利用し、支援員等を配置し、保護者が労働等により昼間家庭にいない、小学校に就学している児童に対し、遊び及び生活の場を提供している。	小学校の教室等を利用し、支援員等を配置し、保護者が労働等により昼間家庭にいない、小学校に就学している児童に対し、遊び及び生活の場を提供している。	小学校の教室等を利用し、支援員等を配置し、保護者が労働等により昼間家庭にいない、小学校に就学している児童に対し、遊び及び生活の場を提供している。	

2 事業コスト

事業費等（千円）	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算
事業費	512,749	619,125	505,594	572,310	510,068	528,699	550,909	0	550,909	0
伸び率（%）	312.8%	1,003.7%	△1.4%	△7.6%	0.9%	△7.6%	8%	△100%	0%	0%
人件費	正規職員	36,307	40,766	44,138	39,328	36,049	30,440	30,515	0	30,515
	正規職員以外	0	0	0	0	2,277	1,872	2,464	0	2,464
	小計	36,307	40,766	44,138	39,328	38,326	32,312	32,979	0	32,979
国庫支出金	113,009	177,143	111,658	165,829	113,597	96,468	150,417	0	150,417	0
県支出金	113,009	117,406	111,658	128,949	112,487	95,475	122,417	0	122,417	0
市債	0	11,400	0	3,300	0	0	0	0	0	0
その他	134,507	95,892	133,744	112,309	135,915	113,446	126,632	0	126,632	0
一般財源（税等）	152,224	217,284	148,534	161,923	148,069	223,310	151,443	0	151,443	0
所要人数 （人）	正規職員	4.56	5.12	5.69	5.07	4.82	4.07	4.08	0.00	4.08
	正規職員以外	0.00	0.00	0.00	0.00	1.18	0.97	0.48	0.00	0.48
主な予算内訳	若竹学級管理運営委託料486,795千円									

3 目標及び実績

活動指標	指標名	単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
			目標値	実績値	達成度(%)	目標値	実績値
若竹学級開級数	学級	目標値	96	97	97	97	
		実績値	96	97	97		
		達成度(%)	100%	100%	100%	%	%
若竹学級入級者数（4月）	人	目標値	3600	3600	3600	3600	
		実績値	3578	3549	3499		
		達成度(%)	99.3%	98.6%	97.2%	%	%

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか	○	増加している		横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要があるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標ほどの程度達成しているか	○	達成している (90%以上)		おおむね達成 (70~90%未満)	達成していない (70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度	○	重要かつ高い貢献度がある		一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し	○	適正		負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				
	現状維持		○		
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	若竹学級は、学級数を増やすなどの量的拡充を最優先に整備してきた。しかし、これ以上の量的拡充は教室の確保や指導員の確保の上で限界である。
見直し・改善内容	令和2年4月から若竹学級の運営を民間委託しており、運営の質的向上につながるよう連携・指導している。